



新聞紙で作る、もしもの時のスリッパ

一日防災学校

もしもの時、

自分で動ける力を――

8.31

子どもたちに災害時の知識と行動を身につけてもらう「一日防災学校」が8月31日、妹背牛小学校と妹背牛町役場で開かれました。同小の児童が地震を想定した避難訓練に参加した後、防災スリッパ作りを体験。役場裏の災害時備蓄庫の見学や非常食の調理・試食などを通じて、児童は災害から自分の身を守る行動と、避難生活に必要な備えについて学びました。

01 地震が起きたら



校内放送に合わせて、
自らの頭を守り、卓球台の下に身を隠す児童

午前10時15分ごろ、地震発生を知らせる校内放送が流れると、児童は頭を守り、先生の指示に従ってグラウンドへ避難しました。

校長先生と消防職員は、素早く行動できたことを評価した上で、避難時には窓ガラスの飛散、頭上の電灯やスピーカーなどにも気をつけるよう説明。目の前の危険を見つけ、安全な避難経路を自分で考えて行動する大切さを伝えました。

防災のポイント

「自分の身は、自分で守る」

危険を見つけ、安全な道を自分で考える

02 「作る」・「遊ぶ」で身につける防災



かるたで遊びながら、防災の知識を学ぶ児童



防災スリッパをはいて歩く体験

災害時には、足元にガラスの破片などが散らばることがあります。児童は新聞紙を折って防災スリッパを作り、実際にはいて足を守る役目を確かめました。

防災かるたでは、1時間に50ミリの大雨はマンホールから水が吹き出したり、崖崩れの危険があることなどを確認。遊びながら災害への知識を深めました。

03 備蓄庫で町の備えを学ぶ



備蓄品の説明を聞く児童



テントの中で段ボールベッドに座る体験

役場裏の災害時備蓄庫では、総務課の職員から、町が備蓄している水や食料、発電機、感染症対策品、簡易トイレなどの品目と数量を教してもらいました。また、児童はテントの中に入り、段ボールベッドの強度を確かめ、避難所での生活を具体的に考えました。

04 非常食を作って食べる



非常食を分け合って味わう児童

保健センターに移動した児童は、非常食の作り方を教わり、カレーうどんやパンなどの非常食を調理、試食しました。アレルギーを持つ人に配慮した原材料や、電気が使えない時もお湯で手軽に食事を用意できることを学びました。

防災のポイント

家族と一緒に、

自宅の食料と水の期限を確かめてみよう